

News Flash

●最終処分場の排水基準の見直し検討開始(中環審廃棄物処理基準等専門委員会)

中央環境審議会廃棄物・リサイクル部会の廃棄物処理基準等専門委員会の初会合が先月29日に開かれた。同委員会では昨年11月の水質汚濁に係る環境基準等の改正を踏まえ、廃棄物最終処分場に係る排水基準の見直しの検討を行い、今年度をめどに報告書をまとめる計画。最終処分場の放流水等からの排出の実態、処理技術の現状、廃棄物中の濃度の実態等を踏まえ、①最終処分場からの放流水の排出基準等の項目追加とその基準値の設定②特別管理産業廃棄物の項目追加とその判断基準等の設定——などについて議論していく。まずは最終処分場の放流水等における濃度などについて実態調査を実施、その結果がまとまった後に2回目の会合を開く予定となっている。

●PO系複合廃材の叩解によるリサイクル技術開発に着手(プラ処理協)

プラスチック処理促進協会は今年度JKA補助事業として、「PO系複合廃材の叩解技術によるマテリアル技術の開発」に取り組む。塩ビ壁紙のリサイクルで開発された叩解技術を、繊維とPOを張り合わせた製品のリサイクルに応用・実証することにより、自動車のプラスチック部品に関連する端材のリサイクル促進につなげる技術開発に挑む。叩解技術は塩ビで先行してはいるが、POは塩ビとは叩解変動挙動が大きく異なることが予想され、同技術開発は開発的要素を多分に含む事業になるとしている。

●CO2削減で佐賀市から感謝状(荏原環境プラント)

荏原環境プラントの省エネルギーに関する取り組みによるCO2削減の成果が評価され、佐賀市から同社に感謝状が贈られた(写真)。同社は佐賀市清補工場の運転管理業務を受託しており、ごみの焼却熱を利用した発電機の効率的な運転管理を通して、清掃工場の省エネに取り組んできた成果が評価された。07年から09年までの3年間で電気使用量の大幅な節約によりCO2換算で約1290トンを削減し、温室効果ガスの排出抑制と経費削減の両立を達成した。



●廃棄物・海域水環境保全助成事業の成果発表会開催(大阪湾広域臨海環境整備センター)

大阪湾広域臨海環境整備センターは公益事業の一環として「廃棄物・海域水環境保全に係る調査研究助成事業」を実施、大学・研究機関等における若手研究者の調査研究に助成を行っているが、09年度の成果発表会を27日、大阪市のTKP大阪淀屋橋カンファレンスセンターで開催する。10人が研究成果を発表するほか、立命館大学エコ・テクノロジーセンターの武田信生氏が「低炭素社会と廃棄物処理」と題して基調講演を行う。

民間で処理業の優良化を推進

産廃処理業の優良化を考える

125

国が優良性評価制度を進める中で、民間による優良化の取り組みも進んできた。エコスタッフ・ジャパン(ESJ)は全国の処理業者の中から優良業者を選定し、全国のネットワークを独自構築している。これまで指定処理業者の基礎づくりを進めてきたが、今後は排出事業者との連携も強化していくという。ESJの田部和生社長と、ESJ会員会社で国の認定も比較的早く取得した加山興業の加山順一郎取締役は、国の制度への意見やESJの展望などについて聞いた。

制度に対し国と一部自治体で温度差がある。優良性評価は非常に良い制度であるが、認定を受けている業者は少ない。ESJに加入している業者は、国や自治体の姿勢に関係なく、独自のハードルを高めても良いと思っている。これ

のほいかげなものかと思う。公共入札で優良性評価の認定を受けている業者が優良業者を育成したいのであれば、上の業者をさらに引き上げる措置を講じるべきだ。排出事業者の意識は、普及するだろう。

田部 ESJでも排出事業者の様々な接点があるが、また大半の排出事業者の意識は低いのが現状だ。経営層と現場の関係作りを進めていきたいと思っている。会員の処理業者には、これまで研修を継続的に行ってきたが、今後は排出側の研究も必要だと思っている。国ができない部分を民間で補って、優良業者の全国ネットワークを構築するのがESJの目的で、その基礎は着実にできている。

公共入札で優良業者が優先されるなどの措置を

田部 ESJ会員企業で優良性評価制度の認定を受けている業者は少ない。ESJに加入している業者は、国や自治体の姿勢に関係なく、独自のハードルを高めても良いと思っている。これ

自に優良化に取り組んでいる。優良性評価は非常に良い制度であるが、認定を受けている業者は少ない。ESJに加入している業者は、国や自治体の姿勢に関係なく、独自のハードルを高めても良いと思っている。これ

場でのキヤップもある。今までは優良業者の許可の有効期間が5年から7年に延長されるようだが、それは多少助かるが本質的なことではないと思っている。例えば行政が、排出事業者の教育研修などを行うには、そのコストがかかるので、真面目に取り組む業者と同じ土俵に上るとい

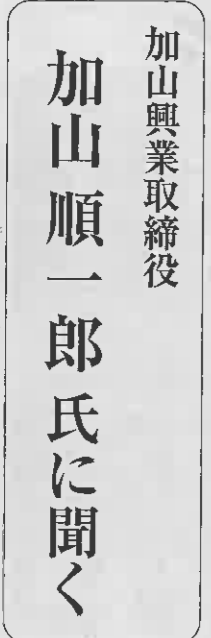
田部 ESJでも排出事業者の様々な接点があるが、また大半の排出事業者の意識は低いのが現状だ。経営層と現場の関係作りを進めていきたいと思っている。会員の処理業者には、これまで研修を継続的に行ってきたが、今後は排出側の研究も必要だと思っている。国ができない部分を民間で補って、優良業者の全国ネットワークを構築するのがESJの目的で、その基礎は着実にできている。

エコスタッフ・ジャパン社長

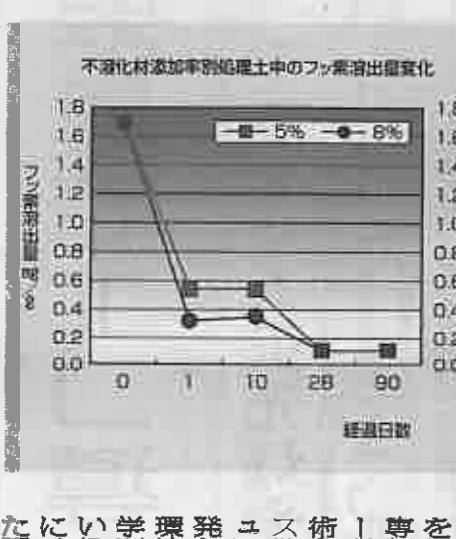
田部和生氏に聞く

加山興業取締役

加山順一郎氏に聞く



加山 当社は名刺にも「優良性評価基準適合」の文言を入れているが、見て気付いた人が「それは何」と聞いてくることがある。制度は、



チヨダウーテ、富山工業高

チヨダウーテ(三重県川越町)、富山工業高等専門学校(富山県富山市)は、廃石石膏ボードの有効活用として、兼ねない。

汚泥の有効利用 廃石膏の安心

石膏ボードは、廃石膏、動化等の阻害要因となり、ボードの有効活用として、兼ねない。